

事業所名

児童発達支援アバンツアーレプレイなご

支援プログラム（参考様式）

作成日

7年

3月

1日

| | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|-------|-----|---------|---------|--|--|
| 法人（事業所）理念 | | Mission：幸せと喜びをつくる Vision：人を育て、人を活かし社会に貢献する。また、全国に革新的なサービスを展開する | | | | | | |
| 支援方針 | | ・利用者の「楽しい」を追求し、小集団でのスポーツ活動や遊びを通して、体を動かしながら身体能力の向上を図るとともに、集団行動に適應し社会性の向上を図ることができるよう、利用者の年齢、特性に合わせて個別に支援していく。 | | | | | | |
| 営業時間 | | 9時 | 30分から | 18時 | 30分まで | 送迎実施の有無 | あり なし | |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | ・健康観察を行い、体調管理を支援する。活動中の声かけを通して、元気に活動できるように支援する。 ・みんなと一緒に体を動かし、運動習慣を定着させ、健康的な生活習慣を確立できるように支援する。 ・活動時間を明示し、活動時の着替え、用具の準備・片付けなどを通して、自己管理能力の向上が図れるように支援する。 | | | | | | |
| | 運動・感覚 | ・ボールを使った運動を通して、基礎運動能力の向上、体幹・バランス感覚の強化、リズム感・巧緻性の向上が図れるように運動プログラムを実施し支援する。 ・ボールを使った協調運動を通して、感覚統合を促せるようにプログラムを構成し、一緒に活動しながら支援する。 ・公園等での遊具遊びを通して、自分の体を動かす楽しさを感じられるように支援する。 | | | | | | |
| | 認知・行動 | ・小集団での活動ルールを理解し、集団に合わせた活動ができるように支援する。 ・集団でのゲーム等を通して、状況を理解する力を養いながら、状況に合わせて行動できるように支援する。 ・感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び適切行動への対応の支援を行う。 | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | ・集団活動を通して、積極的・自発的な発信力を促す環境を作り、支援員が積極的に関わりながら支援する。 ・活動場所や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるよう支援する。 ・「楽しい」「できた」などの感情をジェスチャーなどで表現し、コミュニケーションが取りやすい環境を作り支援する。 | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | ・集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。 ・準備、片付けなどを通して、他者への意識を高めながら、自己肯定感が高まるように支援する。 | | | | | | |
| 家族支援 | | ・子どもやきょうだいの発達（特性）に関する相談、助言を行う。 ・子育て全般に対する相談、助言を行う。 ・専門的支援実施（児童指導員） | | | 移行支援 | | ・小中学校や保育所等への情報提供 ・部活や地域クラブへの同行、連携、体験 | |
| 地域支援・地域連携 | | ・学校や他事業所との情報共有を実施し連携する。 ・地域の施設等を利用しながら、行事等に参加する。 | | | 職員の質の向上 | | ・従業員研修（入社後、半年、1年、2年、3～4年） ・本郷一夫顧問（東北大学名誉教授）による虐待防止及び身体拘束研修 ・支援指導研究所を設け支援に関する相談及び研修等の実施 | |
| 主な行事等 | | ・スポーツフェスティバルの開催（他事業所との合同イベント） ・親子サッカー大会（保護者の参観も兼ねた参加型のイベント） | | | | | | |